血小板ガラスビーズ停滞率に関する検討；
正常人と vWd 患者における Bowie 法と Salzman 変法との比較

名古屋大学第１内科　神谷　忠
緒方　完治
杉原　卓朗

目　的

血小板ガラスビーズ停滞率（以下 Pl；GBR）の検査法には種々の方法があるが，従来，広く用いられている Salzman 変法（以下Ｓ法）では正常値の範囲が大きく，先天性血小板機能異常症や von Willebrand's disease（以下 vWd）の診断を行う場合には問題があった。今回，われわれはBowie 法（以下Ｂ法）につき正常者および vWd 患者について検討を行い良好な成績を得たので報告する。

方　法

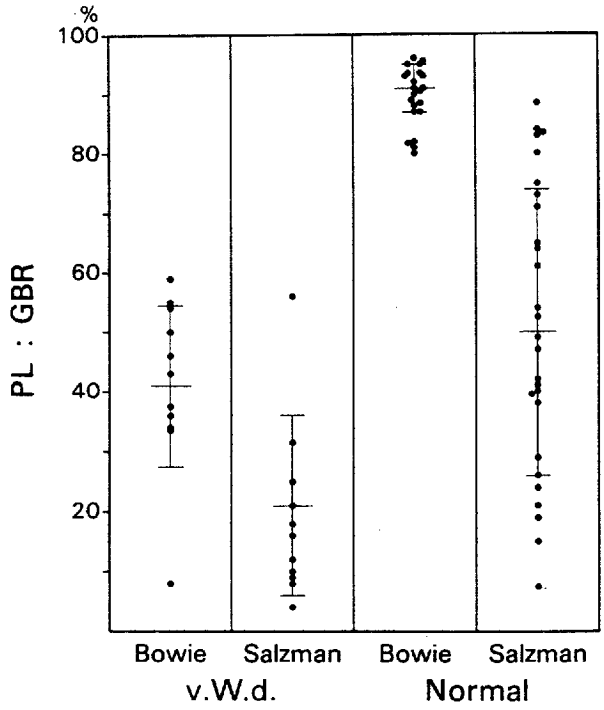
Ｂ法は，30mlプラスチックシリンジを用いヘパリン 4U/ml 濃度にて10ml採血し，混和後30分間室温放置後，2.6ｇのガラスビーズ（IPK CAT No.5663 R 50 ARTHUR H. THOMAS CO., PHILA., PA）入りカラムを使用し，シリンジポンプ（SAGE INSTRUMENT Syringe Pump Model 341 A）を用い 5.5ml/min の速度にて EDTA 入り試験管に１mlずつ分注した。Pl：GBR はカラム通過前の血液と４ml目の血液の血小板数より求めた。Ｓ法については医学書院器械使用説明書に従った。血小板数の測定は，Coulter Counter Model S Plus にて行った。対象は，健常成人27名，vWd患者12名で，Ｂ法Ｓ法を同一日時に施行した。また，正常者では再現性を比較するため１名の被検者について日時を変え６回にわたり検討した。

成　績

健常成人１名にてＢ法でカラム通過血液１ml毎のPl；GBRを求めると１ml目から５ml目までそれぞれ59%，88%，95%，96%，96%であった。ガラスビーズカラムの同時再限性を見るため同一被検者に６回それぞれ二重測定によって行った結果は92.9± 3.1%（M±1 SD）であった。健常成人 27名の Pl：GBR はＢ法では81～96%で90.4±4.7%（M±1 SD），Ｓ法では８～89%で50.0±24.0%（M±1 SD）であった。vWd 患者12名の Pl：GBR はＢ法では８～59%で41.1±13.6%（M±1 SD），Ｓ法では４～56%で20.9±15.3%（M±1 SD）であった。

結　論

Ｂ法では正常値の範囲が狭く再現性も極めて良く，正常人，vWd 患者との間に明らかな差がみられた。Ｂ法は vWd の診断に非常に有用と考えられた。


%
100
80
60
40
20
PL : GBR
Bowie
Salzman
Bowie
Salzman
v.W.d.
Normal

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

目的

血小板ガラスビーズ停滞率(以下 P1;GBR)の検査法には種々の方法があるが,従来,広く用いられているSalzman変法(以下S法)では正常値の範囲が大きく,先天性血小板機能異常症やvon Willebrand's disease(以下vWd)の診断を行う場合には問題があった。今回われわれはBowie法(以下B法)につき正常者およびvWd患者について検討を行い良好な成績を得たので報告する。